

[Japan. J. Clin. Cham., 6, 57 (1978)]

Determination of Trypsin Activity in Serum

MAMORU SUGIURA, KAZUYUKI HIRANO, MASANARI AKATSUKA,*
SHUNJI SAWAKI**, YUKIO SAITO**

血清中のトリプシン活性測定法

杉浦 衛, 平野和行, 赤塚真成*, 沢木俣二**, 斉藤征夫**

血清中の Trypsin 活性測定法について検討した。通常血清中の Trypsin は蛋白分解酵素阻害剤, とくに α -antitrypsin との複合体で存在しており, 不活性型である。そこで Trypsin を複合体から離すべく種々の条件について検討した結果, 反応系濃度 58-75% の acetone により 50% 程度の Trypsin が複合体から解離することを見出した。また, 本条件を種々の血清検体を用いて検討した結果その平均 Trypsin 回収率はほぼ 50% 程度であった。そこで, 本条件を基にして血清 Trypsin 活性測定法を確立し, その操作法を Fig. 1 に示した。本活性測定法を用いて, 種々の患者血清を測定した結果, 腎炎において血清 Trypsin 活性が上昇することを見出した。

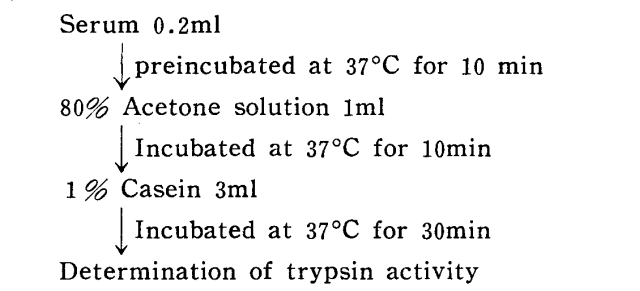


Fig.1 Procedure for determination of trypsin activity in serum

* 東京薬科大学

** 愛知医大第1内科学教室